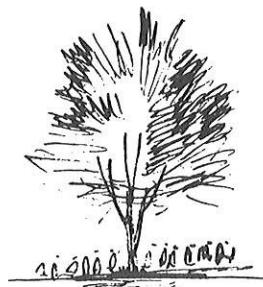


光の子



No.103 2003. 5. 1

● わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。

(ヨハネによる福音書 15:12)



「楽しい遠足」

え・中島英子

「花の光げ」

故郷の酒を片手に春の泥

見送つて沈丁の闇残りけり

スパートかけて春風の追ひつかず

君待つとひとりに余る花の光げ

どこに座しても春の野のくすぐつき

水仙に着きては返す渡し舟

寄せ合つてゐる春愁の頬と頬

黛 (『ヘップバーン』主宰)

先生が説教をされるときのお姿は忘れない。小柄で細身の先生が私達に対面してスクッと立つて説教を始められると、無宗教の私まで、何かに射すくめられたように緊張したことを見ても覚えている。

私の心に忘れられない像を残した先生は、今「形」と「言葉」で甦つてくる。

学者もどきのつぶやき ⑥〇

嗚呼 (ああ) 福島先生

この度、菅原施設長からメールが入り、次回の「光の子」には「福島先生のことを書いて欲しい」と言うことだった。

想い返してみると、先生とお会いしたのは、高々20回に満たないのだが、先生のことが鮮明な印象として私の中に残像している。そして、福島先生には「私と君の関係はそんなに深くはない

ねたみ、嫉妬、憎しみ、怒りといつた凡夫にはいつも渦巻いているそうした余計なものすべて削ぎ落として、生きていくのに必要な最低限の生理学的な容れ物として先生の肉体は存在していたような気がしてならない。お顔もはつきりと想い出すことができるが、過度の表情の表出を自らに禁じているがごとく、あらわな感情を示されたことはなかつた。

を短い言葉で述べられ、あとは誰が何を言おうとも一歩も引き下がらなかつた。理事長退任を表明されたときのことを想い出す。多くの理事が残留の言葉を述べた。先生は終始無言で、それらの発言を結果的には封じたのであつた。

談笑される先生には、言葉通り、ときおり頬笑みが見えた。旧満州の話野菜作りのことなど、これもあまり

談笑しているときの先生のお話である。私も仕事柄会議が多い。議論が錯綜してくると、相手を言い負かそうとして、言う必要のない話までしてしまう。いわゆる「多弁を弄する」というやつである。

施設長の菅原氏は私と同じ年令で、今年65歳を迎えるはずである。そのうち菅原氏の次代へと「光の子ども家」が受け継がれていくときも来るだろう。その時は、福島先生マインドも受け継がれていくって欲しいなあと思う外野の一人である。

ひかりのこ

悼 福島 勲 先生

ここあざしと生きること

施設長 菅原 哲男

菅原 哲男

二〇〇二年十月二十八日、福島勲先生が九十歳の人生を全うされて天国に凱旋された。残された私たちには言葉に表すことの出来ないほどの痛恨の訃報であつた。

「はそうするよ」とまじめなお顔で言われたことが心に残っている。「まだいいだろう」と言われ、もう少しとも思つたが、お体を思い早めに切り上げたのだった。

その夜、「やっぱり家で食べる食事は美味しい。」と、お肉を三切れも食べられ、一頃りみんなと団欒い、奥様と二階でお休みになつた。

七月末に岩崎保育士とお見舞いに信州を訪ねた。先生はお休みになつていたが、目舞つた私どもをお気遣いになり奥様と一緒にのおもてなしをお受けした。お瘦せになつたと思ったが、いつも変わらないユーモアと、辛口の世評や光の子どもの家の状況への思いなどをお話になつていた。

夏を過ぎて秋にでもなれば食欲も出て元気になり、もう一度光の子どもの家に行きたい。食卓で子どもたちが美味しそうに食べまくる姿がまたいと言われてもいた。是非そうしているいただきたいと申し上げ、引き続き光の子どもの家のためにお祈りを願つたのだが、「菅原がいる限り私

「そんな！」などと意味不明な言葉を口走ったようだつた。走つて田中や竹花にそれを告げると、はじめて涙が溢れ出てきた。

すぐに家族と見舞つた私を認め、「お前は来るなつて言っておいたのに！」と。最後のお叱りになつた。

十月二十八日、力さんから「今朝父が逝つた！」と告げられ、全身から血が引くような衝撃を受けた。

力さんによると、十月二十七日、力さんとご長女の塩子さんの二家族に奥様も加えて見舞いに行くからと告げて、病院に行つたら、先生は外泊の手続きをして待つていて、「家に帰る。今晚は家に泊まる」と宣言するよううに言ったという。

島先生、ご遺族の平安をこそ祈る。生活が志を高くする。最も大事なことを生涯をもつて教えて下さった福

週刊朝日書評で絶賛 !! 全国有名書店で好評発売中 !

激増する子どもへの虐待！虐待を受けた子どもが親になって虐待する、というこの国で常識化してしまった言説は垂れ流され、蔓延する。しかもそうした状況に学者・研究者のだれも責任を負わない。
そんな子どもたちと暮らしを重ね、共苦した18年に及ぶ現場での思考と試行。ついに到達した虐待の負の世代関連鎖を突き破る地点までの足取りを記した注目の書。

『誰がこの子を受け止めるのか』

言叢社刊
1,600円

注文は、言叢社／TEL03-3263-4827か光の子どもの家あるいは書店まで

福島先生との交流は私自身数回程度しかなく、イメージとしては厳しいお方なのだと感じていました。

先輩職員から聞く話や施設長から語られる福島先生のエピソードで特に印象に残っているのは「福島先生に命ぜられたことは何があつてもしなければならない。」と施設長から聞いたことです。どんなに無理な注

原田家日記

小西剛史

そしていくつかの季節を重ね、福島先生の執筆された本の出版祝い会を光の子どもの家で催した時に初めて福島先生とお会いすることとなりました。直接言葉を交わすことはなかったのですが、きさくに語られ、

文でも言い訳をせずに聞かなければならぬ。という内容だったようになっていて私は『菅原先生でも意見するところが出来ないくらいに厳しいお方なのだなあ。お会いしたときには何を話せばいいのだろうか?いいや、余計なことを話すと怒られてしまうのでは・・・』と心の中に福島先生の勝手なイメージが築きあげられていきました。

外な言葉が先生の口から飛び出し
驚くと同時に、これまでとは違った
先生の人間臭さを知り親しみを覚えた

それ故近寄りがたさを感じていた。光の子どもの家の職員になつてからも、お会いするのは年に数回であったので、その印象が変わることはなかつた。

だが何度かお会いし、お話しをうかがう機会を重ねていくうちに福島先生に対する印象は少しずつ変化していく。ただ高潔なだけでなく周囲の者への細やかなお心遣い、弱い者への思いやりなど人としての暖かさを持つている方であることを知ることが出来た。

お出でになる時はほとんど礼拝の金曜日が多く、ある時、この礼拝の説教の中でチクショーンなどという意

福島先生と初めてお会いしたのは光の子どもの家開設のための採用試験の時であつた。

追悼
福島先生
河のほとりで
倉澤

光の
中で

左黎家

のだと理解するようになりました。
短い時間の交流ではありました
が、福島先生の「愛情」は私たち、そして
子ども達の心にいつまでも息づいて
います。

福島先生は、これまでの人生で大きく変わりました。先生の立

そして子どもたちを暖かい眼差しで

て福島先生とお会いすることとなりました。直接言葉を交わすことはな

そしていくつかの季節を重ね、福島先生の執筆された本の出版祝い会を光の子どもの家で催した時に初め

文でも、言い訳をせずに聞かなければならぬ。という内容だつたよう
に覚えてゐるのですが、その話を聞
いて私は「菅原先生でも意見するこ
とが出来ないくらいに厳しいお方な
のだなあ。お会いしたときには何を
話せばいいのだろうか? いや、余
計なことを話すと怒られてしまうの
では・・・」と心の中に福島先生の勝
手なイメージが築きあげられていき
ました。

うことで子どもが受けるメリットがあるという両極の可能性を含みます。今後のメディアへの情報開示について

大人は子どもの傷つきをすべて回避することはできませんし、するべきでもありません。傷ついてしまった子どもと共に悲しみ、共に歩んでいくことが私たちの仕事でもあります。ただ、テレビに出ることは、子どもに余計な傷をつけてしまう可能性とこのような施設の存在を知つてもらお

お母さんのことが大好きな静一くんはその放映を見て、きっと期待に胸が膨らませたでしょう。お母さんの気持ちに偽りはなかつたと思いますしかし現実的に静一くんがお母さんと暮らすようになるには時間がかかりそうなのです。「期待はずれだつた時の静一の悲しみを受け止める自信がない」と言つて担当者は涙を流しました。静一くんはこの四月から小学生になりました。担当者の心のこもつた精一杯の関わりとお母さんからプレゼントされたランドセルがありますので、期待がはずれてしまつた悲しい気持ちを乗り越えていき

でも、都度悩み続け、子どもに寄り添うことが第一であることを忘れてはならない」と思っています。

お母さんのことが大好きな静一くんはその放映を見て、きっと期待に胸膨らませたでしよう。お母さんの



ひかりのこ -----



続・光の子らしく

現場から

7

岩崎
まり子

数日前に届きましたが、ここ大利根は今日も激しい北風が吹き荒れ、日光連山がきれいに映える青空を見せていました。

皆様、いかがお過ごしですか。

人生において「絶対」は死しかないとは誰が言つた言葉だつたでしょうか。確かにそうです。人が生まれて死ぬまでの間には、無限の可能性があるのでしょうか。けれど、ここで子供たちと生活し、たくさんの危機的状況と共に経験する中では、彼らの親族、特に親の生き様の持つベクトルの影響の大きさに圧倒されることが多くあります。

母親の裁判は、年明け早々に行なわれました。傍聴させて頂きましたが、今、私の手元にいる幼い子どもの肩に背負わされた、とてもない大きなマイナスを思い、帰途はやりきれなさにため息さえ出ませんでした。

“どうして、よつてたかつてこの子の未来の邪魔をするのだろう”――当事者でもないくせに怒りがこみ上げてきたりしました。けれど、自分の正義に正当性を見出し、それで怒れる立場の人間は楽です。私は一体どこの地點に立ち、どこを向いたら怒れるのか。改めて、分は何者なの

私たちは少しても前に進もうと電話をかけてきた母に、自身の生活を建て直してから改めて親子関係を創っていきましたが、それでもなかなか困難な様子でした。そして、自殺未遂。このままでは駄目だと思つた母は、自ら精神病院へ入院したのでした。

親に育ててもらえたかったという事実だけでなく、親の犯したマイナスさえ自らの負荷として負わなければならぬ子どもたちは、そのことで親に抗議することもなく、最終的には受けとめて生きていきます。そこに正当性があろうとなかろうと、全く親のことを無視しては生きていけないのでです。

今は元気一杯、北風の中でもバケツやらバッグやらに石ころをたくさん

特に、子どもたちの生活について重要な影響をもたらすであろう児童虐待防止法の改正については慎重かつ大胆に対応できるような内容でなければならないだろう。

定員三〇名の児童養護施設光の子どものは家では、子どもたちが奪われたものは何よりも安んじていられる「家庭」であり「家族」であつたところから、可能な限り普通のサイズに近い家庭的な環境と、担当者一名について五名以内の子どもを配置する責任担当制による家族的な関係を保障

特に、子どもたちの生活について重要な影響をもたらすであろう児童虐待防止法の改正については慎重かつ大胆に対応できるような内容でなければならないだろう。

定員三〇名の児童養護施設光の子どもの家では、子どもたちが奪われたものは何よりも安んじていられる「家庭」であり「家族」であつたところから、可能な限り普通のサイズに近い家庭的な環境と、担当者一名について五名以内の子どもを配置する責任担当制による家族的な関係を保障

のであることを推測せるものが殆どであるのが光の子どもの家の状況でもあり続いている。

少なくとも五・六年ほど前から子どもの入所の風景が著しく変化してきている。そのことはこの国の家族関係や有り様が質的に激しく変化していることがうかがえる。

児童相談所から入所依頼があり、職員会議で協議し、自発的な意思表示によって担当者が決定される。それから、ここで生活などについて、その担当者と共に暮らす子どもや指導員が、入所予定の子どもや家族に

親たちは、寝入った子どもの顔を見て涙を流し、「よろしく」と頼んでそつと帰っていくのが最近までの入所の風景だったのである。

この頃、何よりもまず家族が同行する場合が減少してきた。02年度の入所者のうち家族が同行しなかつたのは75%、01年度30%、00年度60%、99年度も60%といつた状態である。

そして、同行してきた家族たちのほとんどに罪責感が少なく、子どもを奪い取った憎むべきものとして児

児童虐待防止法に見直しを規定されて、いた三年が過ぎようとしている。激しく変動する社会状況などの中での児童養護施設の状況の変化などを、児童虐待防止法施行前後等との絡みの中で見ていくこととした。

また、児童虐待防止法改正に向けての様々な団体や個人、あるいは機関が意見や提案を明らかにしてきている。わが全養も「近未来像Ⅱ」の策定作業を進捗させていて、児童虐待防止法の改正とそれに伴う児童福祉法の文三に向けた論議も月々、こ

もたちの自尊の心を育み高めていくことをその養育活動の柱としてきた。疑似家族的な関係が深化していくたびに、大人が築いてきた子どもとの関係が疑似であることの事実を鋭く意識するようになる。そこへ真性の家族関係を調整して導入し、家族と共同する養育を目指してきた。

開設以来、これまでの家族関係への取り組みの中で、あるいは暮らし合う中で子どもたちが表現する言動

に直接 アルハムなどによって説明する機会を持つてきている。その子どもや家族が一緒に生活することを受け入れた時点で入所が決定すると

童養護施設をとらえている者が殆ど

A decorative illustration of a slender, tapered vase containing several stylized flowers and leaves. The flowers are represented by simple outlines with small circles at the ends of the stems.

見守って下さい。
新しい年度も、皆様の祈りのうちにありますことを感謝し、子どもたちの未来に光のあることを祈りながら歩み続けます。

生い立ちや親のことを乗り越えるのには、大変な苦労をすることでしょう。そのときに少しでも役に立てるごとを願っています。ほんの少しでも責任を果たすことができるようになります。

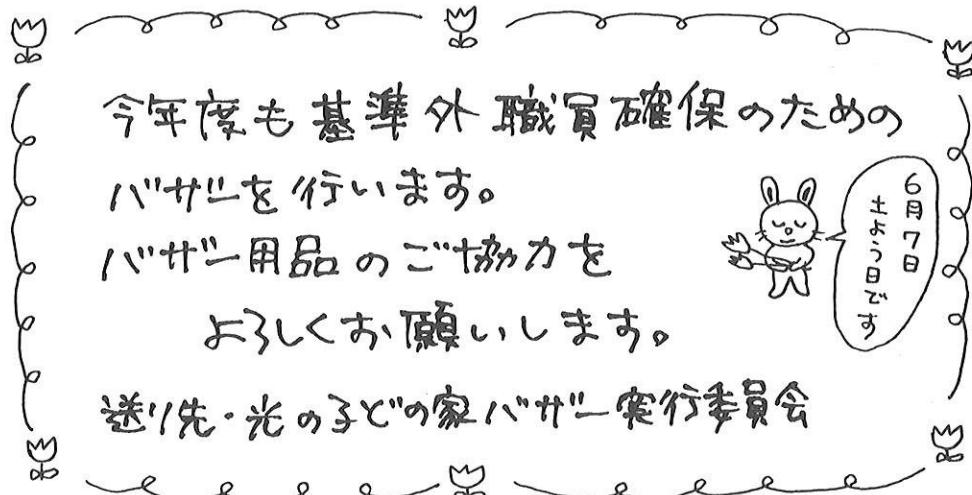
親や家族の生き様は、その大人たちのものです。決してその子どもものではないはずです。親は親、私は私と一緒に太い線をくつきりと心に描き、そのベクトルに抗い生きていくつて欲しい。

福島先生は、病床にありながら自らの命のことではなく、光の子どもとの家のことを見心配していらっしゃったと伺っています。その祈りをしっかりと受け止め、逸れることなく歩んでいけるよう努力したいと思っています。私たちが間違えないよう、

子どもたちや家族がその家庭で示す関わりの現場や、児童養護施設に入所した子どもたちの示す表現についての言動の危険を充満した激しさや眼を背け耳を塞ぎたくなるような粗暴さなどの現場を経験的に識らない児童相談所でも、それはそのことに手をつけた良心的なはたらき人たちに過ぎないだろうことなのであるまして、一〇年ほど前までは有効だった研究者や学者に聞く技術や知識は、彼らの想像を超えた今の児童養護施設の状況には対応不能である

点とすれば、現在ではそのゼロ点が見えないほど後退した地点からの関わりになっているのである。

当然それまでの経験や知識だけでは関わりの手がかりにもならないことが多くなっているのである。したがつて、特に、虐待をしながら子どもへの執着を持つていて、もし元に戻したとすれば以前よりもっとひどい状態になるだろうことが予測される家族とどう関わるのか、新しい関わりの技術や知識を得なければなら



日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 11月1日 ▶ 2003年1月末日

11月

- 幼稚10名 小学生9名 中学生6名 高校生8名 計33名
4日 第67回理事会 経過報告及び補正予算案 第10期役員人事についてなどを審議
○ 第十八回感謝の集い100名をはるかに超える参集を得て盛大に開催された
6日 大坂沙慧きもの学院に合格
16日 後援会・愛育会共催の昼食会。原道小学校教師数名が参加
27日 東京都グループホーム研究会来訪して研修・協議、今月の物品ご寄贈者 篠崎裕美子 戸田幸男 斎藤厚子 加須市肢体不自由児者父母の会 満丸文子 小早川典子 大滝ケイ 岩槻教会 カッヒハウス杉野 須藤保 大利根藤幼稚園 阿部裕美の各位様
- 12月
1日 第1アドヴェントクリスマスの準備始める
6日 原道小学校教師との懇談会
7日 前理事長福島勲先生を偲ぶ会が東京で菅原哲男、田中春女理事 田中郁夫 竹花信恵が出席
10日 この日から3泊4日ショートステイ
13日 虐待死の子どもの鎮魂と防止法改正のパレード 日比谷公会堂及び野外音楽堂から銀座に2000人が
24日 大利根町東婦人会が年末慰問に今年も感謝
○ クリスマスイブディナー キャンドルサーヴィスサンタクロースからのプレゼントも！

25日 クリスマス お友達や家族 教会学校教師や幼稚園から中学校までの教師たち ボランティアや卒園生前職員たちなど120名余を集めて 第1部ページエント 第2部祝会を厳粛にそして楽しく

28日 もちつき

31日 年越し 27名の子どもたちと2家族が 今月の物品ご寄贈者 木田節子 小倉隆芳 謙訪日出子 柴田昇 三国コカコーラパーラーミマス秋山小夜子仙道貴美子栗橋口タリークラブ 浜田文昭 田部井竹子 藤田かおり 菅野圭樹 鈴木重義 川口ふき 毎日新聞社会事業団 高野昌子 小島貴光 はむこ会品川 鈴木史乃 江森百合子(株)ステラ 元和郵便局 栗橋タカラヅネ 八百龜 二本榎木幼稚園 義本太一 市川千代子 宝月寿子 中村一男(株)ワールドファミリーの各位様

2003年1月

1日 元旦礼拝 この年の第1食をおせちとお年玉と
4日 萌季米国インディアナ州立大学へ
5日 お正月気分をぶっ飛ばし3学期を迎える会
6日 埼玉県健康福祉部地域福祉課来訪してインタビュー
22日 神奈川県子どもの園より見学と交歓に4名が
24日 埼玉県同仁学院より見学と交歓に6名が
30日 田村さん散髪ご奉仕
こんな様に年末年始をどうにか過ごし、新しい年度への身構えに入りました。今後もよろしくお願ひします。(くら)

反 射 光

実現を願い励みます。乞うご支援！

(哲)

☆新年度初の発行予定が怠惰故にこんな時期になってしましました☆今号より一〇五号まで前理事長福島先生を追悼する特集を組んで懐ぶことになりました☆これまでの養護メモを再編集し「誰がこの子を受け止めるのか」(言叢社)刊行しました。静かな反響にもう一度足元の確認をさせられています☆二〇〇三年度より定員を六名増員し激増する虐待を受けた子どもたちへの対応に心して励んでおります☆専門学校進学に強い決意で準備してきた沙慧の措置延長が拒否されました☆九七年改正児童福祉法に盛り込まれた子どもの自立支援することと児童年齢一八歳のズレを子どもたちや現場が一身に負うことになりました☆措置延長という制度の精神が実現される日はいつになるのでしょうか☆アフガニスタンやイラクの支援も緊急です☆この国の絶望的な子どもたちに希望を与え、その実現こそをこの国の為政者や行政に第一義的に求めます☆その日の実現を願い励みます。乞うご支援！